

## 餡汁より団子汁

【こんなとき】

- ・心配性でいつもへくよくよしている人に
- ・悩みごとがあつて落ち込んでいる人を励ますとき

【関連】

- ・案じるより芋汁
- ・案じるより産むがやすし

いつまでもくよくよ心配するよりも、美味しいものでも食べながらゆったりしていればよいとのたとえ。「餡汁」（汁粉）に「案じる」を掛けたしやれ言葉でもあり、その上、団子汁の「じる」の音が重ねられて、たいへん耳響きのよい語句に仕上がっている。同音異義語が多い日本語の特性が存分に生かされた小気味のよいことわざの代表的なものだろう。類句も豊富で、「案じるより芋汁」「案じるより豆腐汁」「餡汁より芋汁」「案じるより感じる」などがある。このことわざが特筆に値する点は、技巧的な面にとどまらない。簡潔な言い回しでありながら、ユーモアとウイットをもってなぐさめ癒やしてくれる、その中に価値があるのではなからうか。よく知られる類句「案じるより産むがやすし」と使い分けたいもの。

## 苦を知らぬ者は楽を知らぬ

【こんなとき】

- ・現在の苦勞が将来のためになると励ますとき

【関連】

- ・苦をせねば楽は成らず
- ・楽は苦の種

これを逆にいえば「苦を知る者が楽を知る」となろう。それなので、さんざん苦勞した者こそ本当の楽しみがわかるということになる。このことわざは、多くの人にとって実感しやすい。たとえば、市民マラソンで途中、何回も腹痛などのトラブルに見舞われたにもかかわらず、見事完走したばかりか、目標の入賞も果たしたとき、なんていうのを想像すればよいだろう。あるいは、農民が虫害や台風などの自然災害に何度も遭いながらも、最後は無事収穫できたときに覚える喜びの気持ちは、当事者でなくてもある程度の想像ができるだろう。このことわざは明治期からのものだが、少し異なる「苦をせねば楽は成らず」としたのが江戸中期。さらにそれ以前は、類義の「楽は苦の種」という言い回しが江戸初期にはできていた。